

学研 おんがく通信

学研 おんがく.net <http://gakken-publishing.jp/ongaku/>

Web版も
ある♪
♪バックナンバーが
閲覧できる!
♪ウェブならではの
情報が満載!

10月号

Gakken

(株)学研パブリッシング 音楽出版事業室
〒141-8412 東京都品川区西五反田2-11-8
Tel. 03-6431-1220

学研電子ストア <http://ebook.gakken.jp/gstore/>

2011
年
9
月
25
日

こんにちは! 秋本番! 芸術の秋がやってきましたね。暑すぎず、寒すぎず、湿気も少くなり始めるこの季節は楽器の練習にはもってこいではないでしょうか。私は読書も好きなので、楽器店や書店に行くとつい、音楽にまつわる本を1冊、2冊…と大人買い。どうやら今年の秋も忙しくなりそうですね!!! (め)

ピアニストの系譜 ～ベートーヴェンからリストへ～

今回は、ピアニストの系譜についてふれたいと思います。

一口に系譜といってもその定義は難しいものです。歴史的な系列だけでなく、その国や地域、音楽学校における流派のほか、奏法や演奏解釈など、様々な見方があるからです。

そういうわけで、ここでは二人の音楽家に焦点をあてて話を進めることにしましょう。

その二人とは、カール・ツェルニー (1791年生) とフランツ・リスト (1811年生) です。作曲家としても、ピアニストとしても超一流の二人が師弟関係にあったことはご存じのとおりです。奇しくも今年2011年は、二人のアニバーサリー年でもあります。

ベートーヴェンと
ツェルニー

ツェルニーと
リスト

教師、リスト

ツェルニーがベートーヴェンに師事したのは10歳の頃。ピアノ奏法や作曲法を学びながら、ベートーヴェンの全作品を研究。ピアノ奏法を著したかった師に代わり、数々の練習曲集や『ベートーヴェン全ピアノ作品の正しい奏法』など、多くの書籍を出版しました。また、ベートーヴェンのピアノ作品はすべて弾きこなすという、まさに彼の愛弟子といえる存在でした。そしてツェルニーは、ヨーロッパでも有数の音楽教育家として名を馳せていきます。

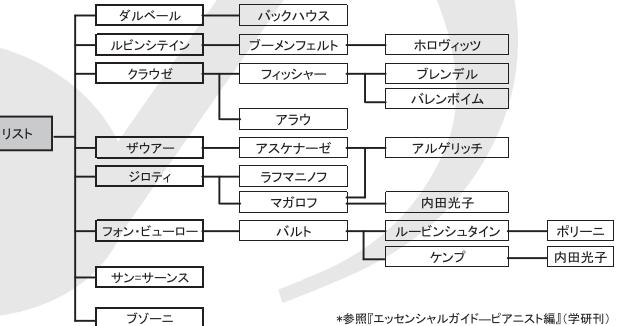
ツェルニーとリストの出会いは1822年。ハンガリーからウィーンへ移住し、ピアノ教師を探していたリストがツェルニーを訪ねます。

当初、リストのピアノ奏法は自己流で演奏も粗雑でしたが、ツェルニーは彼の類いまれな才能に気づき、それから1年半に渡り彼を厳しく指導しました(当時はクレメンティの『グラドウス・アド・パルナスム』が必修教本でした)。リストは「自分の今日の成功はツェルニーあってこそ」と、ツェルニーを生涯に渡り恩師として尊敬し、後年『超絶技巧練習曲集』を献呈しています。

ツェルニーが残した数々の功績の中で、リストを育てあげたことが最大の功績なのかもしれません。リストがパガニーニの演奏に刺激され「ピアノのパガニーニになる」と、ヴァイオリン奏法を研究し、新しいピアノ奏法を開発、〈近代ピアノ奏法の父〉と言われるようになったのは、よく知られています。

音楽史上最高のピアニスト、作曲家であると同時に、優れた音楽教育家でもあったリストは、驚くことに、生涯で400名(!!)におよぶ、世界中のピアニストたちをレッスンしています。大げさでなく、現代のピアニストのほとんどが、リストの流れを何らかの形でくんでいるといえるかもしれません。リストの弟子はあまりにも多く、ここに挙げられるピアニストはほんの一握りですが、右の図に見るように、皆さん良くご存知のピアニストが名を連ねています。

今回は、二人の音楽家の流れを辿ってみましたが、ピアノの発達史や教本の歴史などの視点から系譜を辿ることで、新たな発見があるかもしれません。まずは皆さんが好きなピアニストの系譜を辿ってみませんか?



*参照『エッセンシャルガイド—ピアニスト編』(学研)

今月の

あかね 先生



実は飛行機が苦手なあかね先生。しかし、今月は北海道へ飛びます! 2泊3日の北海道セミナー・ツアーです。

「セミナーでは、いろいろな先生と情報交換をして、指導者としてさらに勉強していきたいですね」(あかね先生談)

セミナー会場では、受講されている皆様とのコミュニケーションを楽しみにしているようです。どんどんあかね先生と語り合ってください!

北海道の報告もブログ「あかね先生のひとりごと」でしてくださるハズ…。(いも)

→ <http://blog.gakken.jp/maruko/>

今月のセミナースケジュール

10/5 (水): [埼玉県／越谷] 島村楽器 イオンレイクタウン店
『子どもが飽きないリズムのレッスン!』

10/18 (火): [北海道／釧路] エルム楽器 釧路支店
『子どもが飽きないリズムのレッスン!』

10/19 (水): [北海道／帯広] 帯広旭楽器商会
ヤマハイーストモール教室
『子どもが飽きないリズムのレッスン!』





今年はリスト生誕200周年
10月22日はリストのお誕生日☆

今年はリストの生誕200年にあたります。

リストの名前はそれほどクラシック音楽にじみのない人でも耳にしたことがあるほど有名ですが、同じロマン派のシューベルトやショパン、シューマンといった作曲家と比べると、いくぶん脇役のようなイメージがあります。

しかし、19世紀以降の西洋音楽史、とりわけピアノ音楽の歴史においては、リストは筆頭に挙げられてもおかしくない存在です。

リストには、作曲家であると同時にピアニストとしての顔があります。ピアニストとしては19世紀最大の存在といつていいでしょう。ピアニストの歴史的系譜は、ベートーヴェンからチャルニー、チャルニーからリストへと続く流れが主流です。さらに、リストには400人を超える弟子があったといわれています。現在の世界中の有名ピアニストの多くが、系譜的には多かれ少なかれリストにさかのぼっていくことができるのです。

作曲家としてのリストには、そんなピアニストとしての自在に鍵盤をあやつる華麗で絢爛たるテクニックをむやみにひけらかすような印象が強いのか、派手な技巧ばかりで音楽的な内容は空疎で貧弱であるかのごとくいわれることがあるようです。しかし、本当にそうなのでしょうか？

物事のある一面があまりにも強く鮮烈な印象を残すとき、本質的に重要なことが影となって見過ごされることがあります。私たちは、それでなくとも音楽を聞くときについてテクニカルな面に目や耳を奪われがちです。リストの人生はたいへん波乱に富んだものといえますが、その音楽も決して一筋縄ではいかない多様な魅力に富んでいるのです。(さ)



Happy Birthday

♪武満徹

(日本／作曲家／1930.10.8生)

♪ジュゼッペ・ヴェルディ

(イタリア／オペラ作曲家／1813.10.10生)

♪ルチアーノ・パヴァロッティ

(イタリア／オペラ歌手＜テノール＞／1935.10.12生)

♪フランツ・リスト

(ドイツ／ピアニスト、作曲家／1811.10.22生)

新着情報

「原著の意図はそのまま生かし、現代においての使いやすさを追求する」『標準新版』中級シリーズ(田丸信明監修)に「ソナチネ・アルバム」がついに登場!「あきせない」「弾きやすい」「教えやすい」をコンセプトに「学習者にとっての使いやすさ」と「指導者にとっての使いやすさ」の両立にこだわりました。「ソナチネ・レパートリー」は、ソナチネ学習の際に最大限の効果が得られるよう、選曲、収録順に工夫を凝らし、ともすれば単調になりがちな中級学習を豊かに彩ります♪

- 標準新版ソナチネ・アルバムI 100p 定価:1,050円(税込)
- 標準新版ソナチネ・レパートリー 76p 定価:1,050円(税込)

Gakken

UDAR

○うださんが作った新しい楽器

ウダー ~其の六~



前回は、ウダーのセンサー方式について説明しました。宇田さんの手製ウダーでは、センサーの上に導電ゴムが巻かれて、それが演奏時のインターフェースとなっています。センシングの方法を変えたことで、インターフェース部も別なしくみが必要になりました。第2の壁は、まさにこの部分でした。形状と材質、両面から検討していきます。静電容量方式のセンサーでは、インターフェース部に空気の層が必要となります。指とセンサーの距離によって、音が鳴ったり鳴らなかったりするからです。最初に中空のチューブを巻くことを考えました。しかし、チューブを巻くためには、その位置決めをしなければいけませんし、固定方法を考えなければいけません。実際に指で押さえつける部分なので、耐久性も要求されます。

最初に上がった材質候補はシリコンゴムでした。手触りもよく、柔らかさも理想的なのですが、シリコンゴムには決定的な欠点がありました。それは、接着できないということです。これでは、固定することができません。そこで、次に考えたのが、筒状の形状の表面にチューブの空洞を模した凸凹をつけるという方法です。これをシリコンで作って、センサー部にかぶせれば、インターフェースができます。第2関門突破!と思えましたが、円筒にチューブを螺旋に巻いた形状をシリコンでは成型できないということがわかりました。1歩後退です。(つづく)

つむりの練習手帳

先月からいよいよ“さんきゅう”の間の先生のレッスンがはじまつて、つむりは夏休み中、毎日(ちょびっとだけ)ピアノの練習をしていました。「新しい先生、どう?」って聞いてみたら「はやいの。」…?からだのことや、音の出し方とかの説明がわかりやすいから、うまく弾けるようになるのが早い…っていうことみたい。自分でもそれがわかるから楽しいのかな。なのに、つむり、新しい先生の名前、覚えていないみたい…(汗)(くいしんばお兄)

つむり現在の楽譜

- ◎バーナムピアノテクニック(ミニブック)
- ◎バストインピアノベイシックス1
- ◎ピアノフレンド2



今月のお客さま

8月のお盆時季。「ピアノの先生に聞きたかったのですが、夏休みでいらっしゃらないんです」とおっしゃりながらお電話くださったこのお客様。

お客様:(以下、お)「リピート記号が片方しかないのはどう繰り返せばいいんですか?」
(↑本当はもっといろいろ説明してくださっていますが、紙面の都合上要約させていただきます…)

担当:(以下、担)「ええっと…(←楽譜を探している)、その場合は、そこから曲の始めに戻つて繰り返すんです。頭(アタマ)に戻るときには、リピートの始まりは省略されます♪」

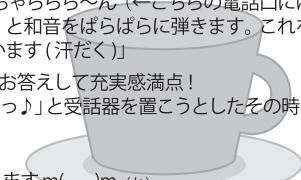
(お)「じゃあ、この和音のとなりに波線(⌘)があるのはどうやって弾いたらいいですか?これ何で呼ぶんですか?」

(担)「ええと…(←また楽譜を探している)、これはちゃらら～ん(←こちらの電話口にはピアノがないので口で説明するしかない。必死。)と和音をぱらぱらに弾きます。これをグリッサンド…じゃなかつた、アルペッジョといいます(汗だく)」

などなど、けっこうまとまつた量のご質問に力いっぱいお答えして充実感満点!…雰囲気的に“そろそろ終わり…?”となつたので、「ではっ♪」と受話器を置こうとしたその時!

(お)「先生っ!!! スミマセンあともう一箇所っ!」

いやいやいやいやいや。タダの担当ですのに。恐れ入りますm(_ _)m(か)



編集部のつぶやいたー!

最近、空を見上げて物思いにふける時間が増えました…。
エッ!? 首のシワ伸ばしかけて? ……当たりです!!

(@_@)

subuyaitter.....

Twitter やってます♪ @gakken_music 日々のよしなしごとや最新情報をツイートしています!

